

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 事業計画（実行団体）

事業名（主）	いのちまるごとプロジェクト事業
事業名（副） ※任意	ひとり親家庭・生活困窮家庭のための ～食べる・学ぶ・暮らす～

実行団体名	認定特定非営利活動法人ハーモニーネット未来
資金分配団体名	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

優先的に解決すべき社会の諸課題

※該当する領域に☑（チェック）を入れてください（複数可） ※左側でチェックした領域に対応する分野に☑を入れてください（複数可）

	領域		分野
<input type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		<input type="checkbox"/>	② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		<input type="checkbox"/>	③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	④ 働くことが困難な人への支援
		<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	⑥ 地域の働く場づくりの支援
		<input type="checkbox"/>	⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他団体として解決したい と考えている社会の課題	<input type="checkbox"/>	（50 字程度）
--------------------------------------	--------------------------	----------

実施時期	2020 年 10 月 ～ 2021 年 9 月
事業対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域（岡山県井笠広域地域）
事業対象者 （事業で直接支援する対象者 と、その他最終受益者を 含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親（母子）家庭 ・生活困窮家庭 ・DV 被害者 ・障がい児（者）
事業対象者人数（想定）	350 世帯 700 人

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
(200 字程度) 定款 第3条 子どもやおとなに対して文化・芸術の鑑賞や創造活動の推進、また社会体験や社会参画の機会の拡充など、すべての人をとりまく生活・文化環境をよりよくする活動を行い、子どもの豊かな成長と安心して生活できる地域社会の創出に寄与することを目的とする。 ・ふれあい・たすけ愛社会の創出 ・子どもから高齢者・障がい者・若者、今を生きるすべての人が安心して生活できる地域社会をめざして！
(2)申請団体の概要・事業内容等
(200 字程度) ・子育て支援および子どもの体験活動や社会参画の機会の拡充 ・今を生きるすべての人が安心して生活できる地域社会の創出 ・さまざまな社会資源（人材等）を活用した生活支援、ふれあい・たすけあい社会の実現 ・ひとり親家庭・生活困窮者・障がい児（者）等の課題解決および自立支援 ・ひとり親家庭への住居等の提供 ・介護保険法に基づく地域密着型サービスの実施 ・児童館の指定管理運営 ・行政・諸団体・NPO等との協働・連携事業 等

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
(800 字程度) 日本の子どもの相対的貧困率が 14.2%、7 人に 1 人と報道があり、「この豊かな日本に」と、多くの人が驚いた。とりわけ厳しいのが母子家庭などひとり親家庭である。ひとり親家庭の貧困率は 48.1%と高い水準にあり、苦しい生活実態が浮かび上がり、貧困の連鎖が重大な社会問題となっている。これに追い打ちをかけているのが現在の新型コロナウイルス感染症の拡大である。 今年 4 月初旬、NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむが実施したアンケートでは、約半数の世帯で収入減、18% は収入がなくなると回答があった。さらに、一斉休校で給食はなくなり、子どもが家にいることにより食費や光熱費がかさむなどの課題が浮き彫りになっている。 新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、金銭・食、また先の見えない精神的な不安の両面に寄り添うことにより生まれる「安心感」を提供する必要性を実感している。 また、新型コロナウイルス感染予防の自粛生活が続くことで DV 被害を受ける母親が多くなっているといわれており、弊法人が運営するシェアライフ「はーもにーハウス」（ステップハウス）にも問い合わせがあり、新たな住居が見つかるまで、母子が安全で安心できる住居を提供することもコロナ禍での必要な支援であると考えている。 母子が心の安定を取り戻し、経済的、精神的に自立するには長い時間が必要である。母子に寄り添い、伴走的支援を続けることにより、自らエンパワメントし、新しい人生に希望をもち歩んでいく未来を描いていきたい。

食料・日用品、住居、「衣食住」に加えて、貧困の連鎖は「教育の格差」といわれるように学習支援も重要であり、安心できる学習環境を整える活動を展開したいと願っている。

子どもはどんな境遇であっても健やかに成長・発達する権利がある。子育てや貧困を家庭だけの課題とすることなく、社会全体の問題ととらえ、行政・企業・各種団体等、多様な主体の資源や知識との連携による持続可能な支援の仕組みを構築する重要性、必要性を実感している。

Ⅲ.事業内容

(1)事業の概要

(300 字程度)

目的：新型コロナウイルス感染の長期化に伴い、金銭・食、不安と先の見えない精神的な不安の両面に寄り添うことにより生まれる「安心感」の提供。

- ◎おなか一杯食べる幸せ、食べるものがある「安心感」の提供
 - ・共生型子ども食堂・しんぐるまざあずカフェ
 - ・フードバンクを活用した、ドライブスルー形式の食料・日用品配布および宅配「子ども宅食」
- ◎子どもへのオンライン学習支援および、悩みや不安を感じている親の相談窓口
 - ・タブレット & wifi 貸与によるオンライン学習支援
 - ・相談窓口設置、精神的な安定による自立をめざす
 - ・スタッフ研修（子ども・DV被害者支援）
- ◎親子の自立をめざした、安全安心の居住空間の提供
 - ・母子ための共同住宅（ステップハウス）整備
- ◎多様な主体による支援体制の仕組み構築 等

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

(200 字程度)

生まれ育った環境で子どもの将来が左右されることのないよう、どのような状況の家庭でも豊かな成長、発達ができる地域環境をめざし、引き続き、「食べる・学ぶ・暮らす」の3本柱を充実、拡大させ、子どもの育ちを支援する。行政、企業、専門機関と連携し、本事業を拡大するとともに、複雑化・複合化する家庭の困りごとをどの相談窓口へかけこんでも必要な支援がノンストップで受けられる仕組みを構築し、支援体制を強化していきたい。

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）

- ◎「おなか一杯食べる幸せ」、食べたいときに食べるものがある「安心感」の提供～食で繋がることで信頼関係を築き、日常抱えている課題を共に解決する～
- ・共生型子ども食堂開催(月 1 回)
 - ※しんぐるまざあずカフェ同時開催(月 1 回)
 - ※開催できない場合はドライブスルー形式のフードパントリーか弁当配布。
 - ※宅配「子ども宅食」(月 1 回)

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・家計相談（随時） ◎オンライン学習支援および生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口 ・現在行っているオンライン学習支援において、動画作成講師を増員し、現状の利用家庭数を増やす。また、オンラインの仕組みを使った親の相談を行う。 ◎親子の経済的・精神的自立をめざした、安心安全の居住環境の提供 ・弊法人が運営する母子のための共同住宅シェアライフ「ハーモニーはうす」（ステップハウス）の風呂増設・合併浄化槽設置に伴う便所の改修等、住環境の整備。 ・DV被害を受けた母子家庭を年間受け入れ、自立に向けた支援を行う。
<p>実施・到達状況の目安とする指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「おなか一杯食べる幸せ」、食べたいときに食べるものがある「安心感」の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・共生型子ども食堂：300名(延べ)・しんぐるまざあずカフェ：60名(延べ) ・食料の配布 250世帯(延べ) ・宅配「こども宅食」80世帯 ・家庭からの生活・家計相談 500件（延べ） ◎オンライン学習支援および生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・端末の貸し出し 20世帯 ・相談件数：60件(延べ) ◎親子の自立をめざした、安心安全な居住空間の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・入居2世帯＋退去2世帯（自力での生活拠点の確保）
<p>把握方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「おなか一杯食べる幸せ」、食べたいときに食べるものがある「安心感」の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・共生型子ども食堂&しんぐるまざあずカフェ:毎回参加者数カウント ・食料の配布：実績を毎回カウント ・宅配「こども宅食」：実績を毎回カウント ・家庭からの生活・家計相談件数：業務日誌 ◎オンライン学習支援及び生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・端末の貸し出し台帳作成 ・家庭からの相談件数：業務日誌 ◎親子の自立をめざした、安心居住空間の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・契約書等の保管台帳を作成し入居・退去を把握する。
<p>目標値/目標状態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「おなか一杯食べる幸せ」、食べたいときに食べるものがある「安心感」の提供 <ul style="list-style-type: none"> ～食で繋がることで信頼関係を築き、日常抱えている課題を共に解決する～ ・共生型子ども食堂延べ300名の参加者を目標値とし、子どもから高齢者までの多世代のふれあいの場の提供を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・食料の配布は延べ250世帯、宅配「こども宅食」80世帯・フードバンク支援でつながった家庭からの生活・家計相談延べ500件を目標値として挙げ、食で繋がることで信頼関係を築き、日常抱えている課題を共に解決する仕組みを確立する。 ・しんぐるまざあずカフェ延べ60名の参加者を目標値とし、なじみとなり信頼関係ができることで、困りごとの解決の機会となる。 ◎オンライン学習支援及び生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・20世帯への双方向型オンライン授業の提供

	◎親子の自立をめざした、安心居住空間の提供 ・入居兼自立準備母子2組、完全自立（退去）母子2組
目標達成時期	全事業 2020年10月～2021年9月

(4)活動	時期
「おなか一杯食べる幸せ」、食べるものがある「安心感」の提供	2020年10月～2021年9月
オンライン学習支援および生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口	2020年10月～2021年9月
母子の自立をめざした、安心居住空間の提供	2020年10月～2021年9月
居住空間の改修	2020年10月～2020年11月

(5) 事業の今後の展開（今後、団体が目指す事業展開）
<p>(200字程度)</p> <p>さまざまな要因が重なり、暮らしにくい今の時代、世界的に貧困家庭は増え続け、あたりまえに安心して『食べる・学ぶ・暮らす』ことが難しくなっている。</p> <p>本事業を継続、拡大すると共に、「子どもの貧困」が個人の課題ではなく、社会全体の問題としてとらえ、行政・企業・地域全体で解決をすることにより、「貧困の連鎖」を断ち切り、親子が真の自立をめざし、子どもが将来、社会貢献できる循環型社会を構築していきたい。</p>

(6) 日々の事業実施や組織運営において子どもの安心・安全をどのように確保していますか？ （子どものセーフガーディングの取り組みなど）
<p>(200字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故なく安全な事業実施を行うために、立案の時点から専門家からアドバイスを受け、企画を遂行する。 ・野外活動においては、下見を行い、「思いつきの行動はしない」等、関係スタッフ間で共有する。 ・不適切な言動で子どもや対象者を傷つけることが無いように、ボランティアスタッフも含め、事前に活動の内容を伝え、「DV」「不登校」「発達障がい」等の研修を行う。 ・子どもたちとの良い関係を築くためにも、スタッフ同士の信頼関係を大切にする。

(7) 子どもへの支援活動を行う際に、団体として、留意・心がけているポイント。（活動における子どもの役割など）
<p>(200字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生まれながらにもっている「命の輝き」に気づき、能力を十分に発揮して成長、発達できる環境を提供 ・子どもの心や人格の形成に不可欠な多世代の交流の場を提供、多くのふれあいを通して社会を肯定的に受け止める機会の創出 ・親も子どもも安心して自分らしくいることができる居場所の提供 ・親支援・家族支援等により信頼関係を構築し、社会課題の把握・解決をめざす

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	別紙①
(2)他団体との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・笠岡市子育て支援課・教育委員会 ・岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室 S S W ・岡山県児童相談所・笠岡市警察署・笠岡市社会福祉協議会 ・学習広場笠岡・N P O 法人フードバンクおやかま・おてらおやつクラブ ・システムプロダクト株式会社・N P O 法人子どもステーション ・N P O 法人ホッとるーむふくやま・笠岡市商工会議所
(3)想定されるリスクと管理体制	別紙②

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無		
コロナウイルス感染症に係る事業		
① 本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している(予定も含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し	「有り」の場合その詳細
		<ul style="list-style-type: none"> ■「ゴールドマンサックス緊急子ども支援基金」 <ul style="list-style-type: none"> ・5月～8月、おなか一杯食べる幸せ「こども宅食」の食料購入、「オンライン学習支援」で活用するタブレット端末やシステムの整備を行う。 ■赤い羽根新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーンフードバンク活動等応援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・食品庫・精米機購入
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	※有の場合、選定の対象外となります。 (公募要領：助成方針参照)
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績		
(200字程度)		